



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.hovukai.org/>

第138号

発行:2017年10月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

## フジヤマ病院の現状と看護部紹介

～地域からの信頼、職員のやりがい・誇り、そんな病院を目指して～

フジヤマ病院 看護部長 石塚 八重子



「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」という名称で、2013年6月世界遺産に登録されました。昔から和歌や俳句に読まれ、日本の象徴と言われる富士山の麓にフジヤマ病院があります。看護部長室の窓から、鳥のさえずりと共に金木犀の香りが風に運ばれてきます。四季折々の移り変わりが感じられる日々を過ごしています。

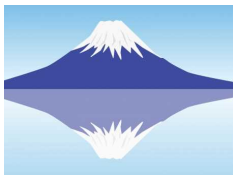
フジヤマ病院看護部は、看護職員総数56名（内訳：看護師23名・准看護師14名・看護補助者18名・クラーク1名）で、外来部門と病棟部門の業務を行っております。病棟は、急性期病棟60床（15対1）療養病棟50床（20対1）の入院基本料で運営しております。厚生労働省より療養病棟入院基本料2の廃止に伴い、先日9月1日に療養病棟入院基本料2から1へと申請し受理されました。4月から新たに根本院長を迎え少しずつ前に向かって進み始めております。

看護部では、看護職員の集合研修は外部の研修を活用していましたが、遠方なために研修を受講したくても職場の人員不足や家庭的な事情で参加できない職員が多くいます。また看護補助者の業務拡大を図るために、教育体制を考え数年前より学研ナースングサポートを導入しています。看護部の理念、看護部が育成したい看護師像をふまえ、当院看護職員に求められる能力の開発を支援していくための、教育内容をいつでも、どこでも研修することが出来る

体制づくりを行っております。それに加え「私が大切にしている看護」を看護師長や主任看護師が講師となりグループワークを行い、一人ひとりが大切にしている看護を実践する事により患者様を大切に思うところが広がっていくと考えます。

当院は富士宮市北部にあり、市街地から離れており、病院の知名度も低く、また数年前から診療科目もへり、外来患者の減少も大きな問題となっております。そのため病院の組織が変わったことや、新しく診療科が増えたことを地域の人々に知ってもらうために、各地区で行われる出張商店街や施設のお祭りに出掛けて、医療相談や骨折予防の指導などを行うと共にフジヤマ病院が新しい組織に変わった事や外来診療についてなどを話すなどの活動を、小林次長・リハビリスタッフ・各施設相談員・看護師で4月から取り組んでいます。現在、少しずつ外来患者は増えてきております。

フジヤマ病院は、富士宮市北部地域に無くてはならない病院と自負しております。そのためにも小さいからこそ、全職員が同じ目標に向かい、一人ひとりが力を出し高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることが出来るよう頑張っていきたいと思っております。根本院長の目指す地域医療「地域の人から信頼される医療を提供し、職員がやりがいを持ち仕事に誇りを持てる。」を実践するために努力精進していきたく思います。



# 自然豊かな環境 フジヤマ病院

フジヤマ病院はとても自然豊かで、療養環境としては恵まれた場所にあります。そんな自然豊かな写真や地域の方々との交流を掲載しました。



逆さ富士



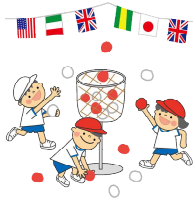
徒歩圏内にある白糸の滝



施設に迷い込んできた鳥



地域のお祭りに参加



# ほうゆう保育園 運動会開催

10月14日（土）小雨降る日でしたが、希望ヶ丘地区センターにて『ほうゆう保育園の運動会』を開催しました。体操やダンス、玉入れ、親子競技、リレーなど、保護者の皆様のご理解とご協力と子どもたちの頑張りで、とても素敵な運動会でした。



## 鵬友会 研修レポート

～平成29年度 ケアワーカー研修会 開催！～

平成29年10月14日（土）

平成29年10月14日（土）9時～15時 鵬友会合同ケアワーカー研修会が行われました。前半は、池島常務理事（ケアワーカーに期待すること）と横浜ほうゆう病院の原科看護部長（接遇とケア）、同病院の井上作業療法士科長（移乗・体位交換・車椅子等のケア提供時の接遇～事例を通じて～）の講話があり、後半には、グループワークで『日々のケア提供中での接遇について、事例での行動を振り返る（自己分析を含む）』についてのディスカッションし、学びを深めました。